

通りの中に



Concept

日本大学と東邦大学の間には大きな壁があり、両校を行き来するにはその大きな壁の一角にある小さな通路しかない。それは、生徒同士が交流を深めるところか顔を合わせる事すらできない。そこで、両校の生徒が気軽に使える共有の正門・通路を大きな壁の部分に設ける事にした。そこには部室・展示場・講演ホール・広場などの機能を設けることによりいろいろな人達との出会いの場となる。このような両校がより活性化するような緑豊かなコミュニケーションスペースを提案する。

正門を抜けるとすぐに階段があり、G.Lから3mほど下がる。

階段を降りるとすぐに石碑がある。この石碑は以前からあり、当時の空間の名残として残した。

ホールを抜けると、部室の役割を果たすキューブ状の空間が点在するエリアに足を運ぶ。空間をまばらに配置することで第三者が気軽に立ち入る事が出来るエリアを目指した。



石碑の先には、展示場兼講演ホールを配置。平時は巨大な窓を常時開放しておき通路としての機能を果たす。しかし、イベントや講演会がある際には、窓を閉じて屋内空間というもう一つの顔を表す。

次に姿を見せるのは、キューブ状の空間の屋上を緑地化した屋上庭園である。この屋上庭園は両校の間を飛び石の感覚で繋げている。

点在する部室空間を抜けると食堂が姿を表す。食堂もホールと同様の機能を組み込み、天候の変化で建物の機能も変化していく。



Elevation

